

令和元年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1. 昨年度の「改善プラン」の検証

1) 【成果】

学年によって多少の増減はあるが、昨年度同様、学力調査では高い数値を残している。第3学年は昨年度より+0.9ポイント、第2学年は-2.6ポイント、第1学年は+0.8ポイントであった。立式やその後の計算の仕方、より細かく丁寧に指導し、なぜそうなるかを理解できるように説明や、納得しやすい例題を提示しながら授業を展開した。また、数学への興味を持たせたうえで、基礎・基本の理解と定着に重点をおき、それを使って応用的な問題ができる力、基礎的・汎用的能力を育てることができた。

(2) 【課題】

基礎力が定着していない生徒に対してのフォローが必要であると感じる。そこで、習熟度別による少人数指導を取り入れ、支援の必要な生徒の個別指導を行っていく。また、基礎的な内容を理解している生徒に対しては、既習事項を確認しながら、新たな学習内容の定着も図っていく。

2. 授業改善のポイント

※改善内容に観点【関】【考】【技】【知】を記入。

1 学年

- 昨年度の結果より、+0.9ポイントとなった。章の導入で、具体的な事象を数学的にとらえたり、性質や関係を見い出したりする問題を取り入れる。数学的に考え、表現することに興味を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断する力を育てる。【関】
- 昨年度の結果より、+1.1ポイントとなった。班活動などで、数学的な知識や技能を活用して、論理的に考察し表現するなどの機会を取り入れ、数学的な見方や考え方を育てていく。【考】
- 昨年度の結果より、+0.6ポイントとなった。小テストやステップ学習プリントを活用して基礎計算能力を高める。基礎学力の定着ができていない生徒に対しては、夏休みや放課後に補習を実施するなど、個別指導を行っていく。【技】
- 昨年度の結果より、-0.3ポイントとなった。各担当者が常に学習状況を把握し、生徒が意見を発表しやすい授業展開の工夫と個々の生徒のレベルに応じた学習活動（共通の問題の他に発展問題など）にも取り組ませる。【知】

2 学年

- ・【関】昨年度の結果より、-5.6ポイントとなった。さらなる向上を目指して、生徒の興味を惹くような教材の開発に努める。
- ・【考】昨年度の結果より、-3.1ポイントとなった。さらなる向上を目指して、具体的な場面を取り上げ、論理的に考察し、説明するなどの機会を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を養う。
- ・【技】昨年度の結果より、-1.2ポイントとなった。さらなる向上を目指して、ワークやステップ学習プリントを活用して基礎計算力を高める。定着が難しい生徒に対しては、夏休みや放課後に補習を実施するなど、個別指導を行っていく。
- ・【知】昨年度の結果より、-4.1ポイントとなった。さらなる向上を目指して、定期的の問題演習を行ったり、ワークやステップ学習プリントを活用して知識の定着と問題への慣れを図る。定着が難しい生徒に対しては、個別に指導を重ねていく。

3 学年

- ・【関】昨年度の結果より、+1ポイントとなった。さらなる向上を目指して、生徒の興味を惹くような教材の開発に努める。
- ・【考】昨年度の結果より、+1.3ポイントとなった。さらなる向上を目指して、具体的な場面を取り上げ、論理的に考察し、説明するなどの機会を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を養う。
- ・【技】昨年度の結果より、+0.2ポイントとなった。さらなる向上を目指して、ワークやステップ学習プリントを活用して基礎計算力を高める。定着が難しい生徒に対しては、夏休みや放課後に補習を実施するなど、個別指導を行っていく。
- ・【知】昨年度の結果より、+1ポイントとなった。さらなる向上を目指して、定期的の問題演習を行ったり、ワークやステップ学習プリントを活用して知識の定着と問題への慣れを図る。定着が難しい生徒に対しては、個別に指導を重ねていく。